

特集
1

保健師の「プロフェッショナルリズム」を考える

座談会 楽しく充実した保健師生活のススメ —— 佐甲 隆(司会)・野村由里子・古川馨子・山内和恵・渡辺多恵子

合併がもたらすジレンマとの向き合い方 —— 高橋こずえ

時代に合わせて「変える」こと、「変えない」もの —— 竹原智美

さまざまな価値観のなかで健康を守るということ —— 須山有輝子

看護大学という職場に働く磁力を読む —— 佐甲 隆

特集
2

障害調整健康余命 (DALE)

編集後記

● はじめまして。本号から新たに編集スタッフに加わりました杉之尾成一(すぎのお しばかず)と申します。先月まで、看護の書籍編集を担当していましたが、雑誌編集の世界に約10年ぶりで戻ってきました。以前、20数年前から10年前にかけて『看護学雑誌』や『看護研究』を担当していた頃とは異なり、多くの作業がデスクに坐ったままで済んでしまうようになった現実には少し戸惑っています。

と言っても、私はもともと、デスクで作業して、出かけないですむようにすることは得意で、インターネット普及前に電話回線を利用したパソコン通信網を使って原稿の受け渡しを済ませたこともあるくらいです。その点での違和感はないのですが、だからこそ却って、「仕事は現場だ」と強く思っています。

保健師の仕事はどちらかというと、現場での具体的な仕事を中心だと思いますので、できるだけ取材に出かけて、皆様の生の声をお聞きたいと思います。より良い紙面づくりに貢献できるよう頑張ります。(杉之尾)

● 公衆衛生学会の帰り道、ふと立ち寄った書店で、小林多喜二の『蟹工船』が目にとまる。そういえば、半年ぐらい前にブームになっていたなあと、遅ればせながら購入。プロレタリア文学の金字塔『蟹工船』が、格差社会やワーキングプアといった現代の風潮とリンクし、共鳴する若者が多い、ということは既知のことだったが、私はむしろ文学作品としての完成度に目を惹かれた。劣悪な労働環境下で資本家に搾取されていく労働者の心理状況が、実にリアルに描かれている。もちろん、時代を越えて訴えてくる「何か」を感じないわけではないが、思想や社会背景の異なる作品を安易に現代に重ね合わせ、「日本」や「自分」を軽率に語るのには、些かの抵抗を覚える。

—— などという話を年下の友人に話したら、「カニコウセンってどんな光線？ウルトラマンのスペシウム光線みたいやつ？」と真顔で返された。私もまだまだ若い人間だが、下には下がいるものだ。これもある種の格差社会。カニ歩きで逃げるべし。Y_Y (和田)

保健師ジャーナル 第65巻1号 2009年1月10日発行(毎月1回10日発行)

Published by IGAKU-SHOIN Ltd, 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo©2009, Printed in Japan

1部定価1,365円(本体1,300円+税5%) 2009年年間購読料15,000円(税込,送料弊社負担)

発行 株式会社 医学書院 代表者 金原 優 〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23 販売部(03)3817-5657 社内案内(03)3817-5600

保健師ジャーナル編集室(03)3817-5774 電子メールアドレス hokenshi@igaku-shoin.co.jp 担当/杉之尾・和田・安部

本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)医学書院が保有します。

JCLS <(株)日本著作出版権管理システム委託出版物>

本誌の無断複写は著作権法上の例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に(株)日本著作出版権管理システム(電話03-3817-5670, FAX 03-3815-8199)の承諾を得てください。1348-8333/09/¥250/論文/JCLSが本誌の頁表記に並んで記されているのは、1論文1回複写につき250円を要することを明示したものです。表示のない論文などにも適用されます。JCLS宛にご連絡いただく際には、筆頭著者名・論文名と併せて本表示をご提示くださるようお願いいたします。